



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R8 年度 CS通信No.8 R8.10.5



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

■学校運営協議会委員による学校訪問の実施 (西海小) (9/28)



授業参観では、先生と子どもたちの良い信頼関係が感じられる、とても落ち着いた授業風景を見ることができました。特に、学校全体で足並みを揃え、ICT(コンピュータ)を積極的に活用した授業づくりに取り組む姿が印象に残りました。

その後の協議では、校長先生より「挑戦・思いやり・粘り強く」をキーワードとした今年度の重点目標についてご説明いただきました。

また、教頭先生からは、地域学校協働活動の推進状況についてお話を伺いました。

【訪問した委員の声】

「授業中、先生が児童の良い発言をしっかりと褒めており、それが子どもたちの自己肯定感の向上につながっていると感じました。」

「先生の目線が子どもたち一人一人にまで行き届いており、素晴らしい授業でした。」

「すれ違う際に、元気よくしっかりあいさつができる素直な児童が多いと感じました。」

■大学と連携した防災教室を開催(舞戸小5年) (9/18)



はじめに、岩手大学 高橋准教授から洪水につ

いて学びました。令和4年8月に起きた自然災害の動画を振り返りながら、氾濫の意味や、「内水氾濫」と「外水氾濫」の違いについて理解を深めました。その後の実地調査では、5つの班に分かれて、大学生の皆さんと一緒に町を歩きました。

実際に内水氾濫が起きた場所へ足を運び、土地の高低差を比べることで、どのような場所で内水氾濫が起こりやすいのかを肌で学ぶことができました。弘前大学 清水助教のケガの対処に関する講習では、「ケガをしていても、まずは自分の命を守る行動を優先すること」を教わりました。

【参加した児童の頼もしい感想】

「洪水の種類や応急処置について詳しく学ぶことができました。楽しかったので、またやりたいです。」

「町を実際に歩いてみて、いろいろなことがわかったので、この知識を活かしたいです。」

■中村川治水工事に係る現場見学(小学校合同) (9/30)



舞戸小5年生と西海小5・6年生を対象に、中村川治水工事の現場見学会が行われました。

当日は、古い護岸から新しい護岸へと造り替える大がかりな工事の様子や、大雨の際に町を水害から守る「上富田雨水ポンプ場」を見学しました。

子どもたちは、この治水工事に大きな費用がかけられていることや、町・建設業者・地域住民などたくさんの方々が力を合わせて取り組んでいることを学び、驚きの声を上げていました。

見学の最後には、お世話になったストヨネ、雁金建設、丸重組の皆さんに全員で元気よくお礼の挨拶をしました。